

土器川潮止堰

土器川潮止堰は香川県丸亀市の土器川河口から約 2km 上流に設置されているゴム製の堰で、塩水遡上防止の役割を果たしています。土器川潮止堰が建設された契機は、昭和 47 年、48 年の二度にわたる塩害発生にあります。いずれの時にも、夏季の干ばつ時に瀬戸内海一帯で発生した潮位の異常上昇が加わって、土器川下流部で潮水が遡上して、丸亀市の上水道をはじめとする一帯の伏流水取水に甚大な塩害をもたらしました。

丸亀市では自衛措置として河床土により仮堰を設けて塩水の遡上を防ぐ応急対策をとりましたが、その一方で昭和 48 年 11 月には恒久対策として潮止堰建設を政府に強く要望しました。これを受けて、建設省は土器川河口部の河積確保は掘削により対応することが都市機能上、用地確保上、経済性などからみて最も得策であると判断して、河床掘削に影響を受ける堤内の取水設備に対して潮止堰を設けることを計画しました。潮止堰の付近は土器川が丸亀市街部を貫流し、しかも大きく蛇行しており、河積が最も不足している区間であるため、河床掘削とそれに伴う潮止堰の施工は緊急を要するものでした。このため、建設省と丸亀市が合併事業で、昭和 52 年度に土器川潮止堰建設工事に着工し、昭和 54 年 3 月に完成しました。

土器川潮止堰のタイプは当時としては珍しいゴム引布製起伏堰であり、一級河川の本川筋に設置するゲートとしては最大級のものでした。起伏堰は二連からなり、一連の堰長は約 40m、堰高 2.78m の規模です。常時は空気膨張により起立させて防潮し、洪水時には上流水位が一定水位以上になると自然倒伏します。また、併設する調節堰は、転倒ゲートで常時下流側潮位により自然起伏を行い、海水の逆上を防止するとともに上流側水位を調節します。

土器川潮止堰は丸亀市の島しょ部を含めた上水道や農業用水の取水に対して安全、安心を確保してきましたが、年月の経過とともに堰本体のゴムが劣化するなど機能低下が生じ、その都度補修が行われてきました。しかし、潮止堰の機能が不能になると、丸亀市清水浄水場の関連で丸亀市の給水人口の約 2 割に当たる約 22,000 人に甚大な影響を及ぼし、約 108ha の農業用水が取水不能になるなどの影響が想定されるため、老朽化した土器川潮止堰の機能向上を含めた抜本的対策が平成 29 年度から概ね 5 年の予定で実施されているところです。

<参考文献：建設省四国地方建設局監修「四国地方建設局三十年史」1988 年及び四国の建設のあゆみ編纂委員会編「四国の建設のあゆみ」1990 年など>

